

29 通学学習

義高 互

中学校で担任した生徒の生活単位について提示します。

この学級では作業所と連携して作業を行い、通常学級の生徒から協力してもらい制作したアプリで販売の学習をして、文化祭で販売までに至りました。

この学級のときの生活単位学習を提示します。

この 1990 年代に想定していた社会スキルのモデル像は「公共交通に乗り、買い物が出来て、困ったら電話で相談が出来る」でした。

生活モデル

公共交通に乗り
買い物ができて
困ったら電話をかけられる

進路先「鶴岡高等養護学校」に
公共交通を使い自力で行き、
困ったら電話連絡が出来る。

アプリ等で学校のシュミレーション

実際の体験学習

教師・保護者・本人
↓
本人だけでできる

シュミレーションは実体験と繰り返して有効になる

買い物については「買い物学習」や文化祭での石鹸販売で随分行っていました。

この生活単位は進路先「鶴岡高等養護学校」に公共交通を使い自力で行けて、困ったら電話連絡が出来る。

というモデル像を想定して学習を行いました。公共交通を使っ高等養護学校まで行く実習を 4 度にわたって行いました。



シュミレーションアプリを作成してシュミレーションを行って交通の手順や困ったときに電話連絡をする順を覚



えていく、というものでした。

まだ携帯電話が無く、鶴岡に最上から進学できる時代でした。

行程を知ってもらう必要から保護者にも同伴してもらう実習も含めました。

教員保護者同伴から、教員同伴、そして最後は一人で往復する、という体験学習が出来ました。



保護者とともに実際
鶴岡まで行ってみる
体験学習

吹雪で列車が遅れた日もありましたが、良い体験になったと思います。

このシュミレーションアプリがこれです。

間 通学学習

生徒は卒業後に進学して月曜日にこのルートで行き、平日は寄宿舍に泊まり緊要に戻ってくる、という高校生活を送りましたので、

進路先のための実践学習になったと思います。これも町、学校、保護者の協力無くしては出来ない体験学習だったと思います。



鶴岡駅にて



鶴岡の
切符売り場



吹雪の中
実際の良い
体験になりました



列車が遅れ
乗り継ぎが乱れ
余目で立ち往生
鶴高養と連絡を
取り合い